

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 28 年 2 月 8 日 12 時 45 分 ~ 14 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 38 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

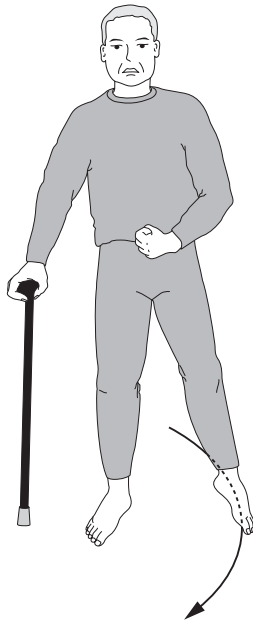
101 (a) (b) (c) (d) (e)
 ↓
 101 (a) (b) (●) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ (●)
(d)	(d)
(e)	(e)

- 1 介入を伴う臨床研究について正しいのはどれか。
- a 倫理審査委員会の審査は必要ない。
 - b 被験者は研究計画書を閲覧できる。
 - c 開始した研究は中止することはできない。
 - d 研究に伴う有害な事象は開示しなくてもよい。
 - e 研究で得られたデータの部分的改ざんは許容されている。

- 2 歩行時の姿位を図に示す。



この患者の左下肢に予想されるのはどれか。

- a 筋緊張低下
- b 腱反射減弱
- c 足クローヌス
- d 線維束性収縮
- e アステリキシス

3 入院中の高齢者が夜間のせん妄を発症したとき、せん妄を増悪させるのはどれか。

- a 家族との面会を勧めること
- b 日中の自然光を採り入れること
- c 夜間は病室を真っ暗にすること
- d 病室にカレンダーを掲示すること
- e 時計を大きな文字盤のものにすること

4 尿道カテーテル留置の目的で最も適切なのはどれか。

- a 尿路感染の予防
- b 介護負担の軽減
- c 尿蛋白量の測定
- d 患者の長期安静保持
- e 水腎症を伴う慢性尿閉の治療

5 微生物検査で塗抹鏡検に適した品質の良い喀痰の好中球の数と扁平上皮細胞の数との組合せで正しいのはどれか。

ただし、数値は倍率 100 倍で鏡検時の 1 視野あたりの細胞数を表す。

好中球 扁平上皮細胞

- a 0 ———— 0
- b 5 ———— 5
- c 5 ———— 30
- d 30 ———— 5
- e 30 ———— 30

6 心音のⅢ音について正しいのはどれか。

- a 低調な音である。
- b 座位で増強する。
- c 収縮期に聴取する。
- d 大動脈弁領域で聴取しやすい。
- e 小児で聴取すれば病的である。

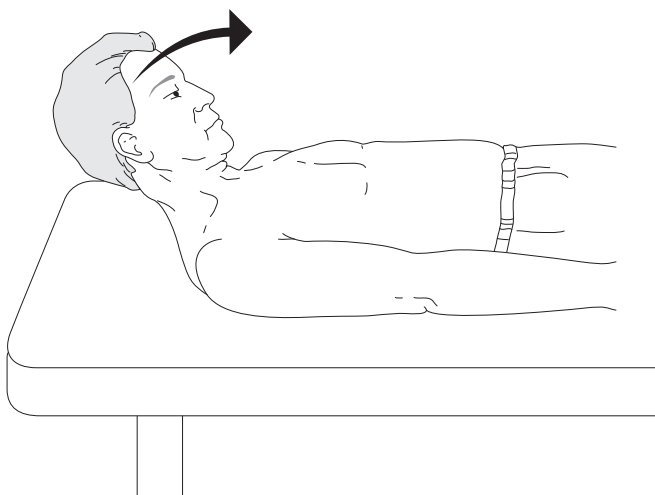
7 薬物と副作用の組合せで誤っているのはどれか。

- a ジギタリス ————— 悪 心
- b オピオイド ————— 下 痢
- c 抗ヒスタミン薬 ————— 眠 気
- d 副腎皮質ステロイド ————— 高血糖
- e ベンゾジアゼピン系抗不安薬 ———— ふらつき

8 甲状腺の診察で正しいのはどれか。

- a 頸部を後屈して行う。
- b 甲状腺は甲状軟骨と舌骨との間に触知する。
- c 唾液を嚥下すると甲状腺は頭側へ移動する。
- d 甲状腺の血管性雑音は頸動脈分岐部分で聴取する。
- e 甲状腺を触知すれば甲状腺腫大があると診断する。

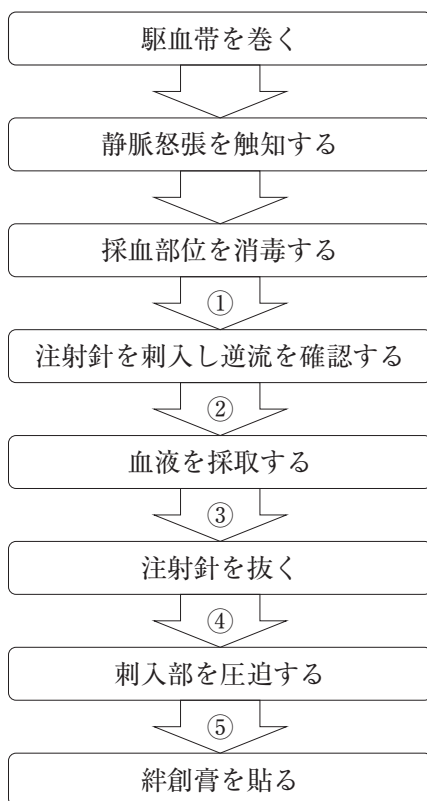
9 徒手筋力テストの図を示す。矢印の方向に頭部を動かしている。



主に働く筋はどれか。

- a 三角筋
- b 僧帽筋
- c 大胸筋
- d 肩甲挙筋
- e 胸鎖乳突筋

10 シリンジを用いて静脈採血を行う手順を示す。



駆血帯を外す時点はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

11 基準値が特定の疾患の有無を判断する目的で設定されているのはどれか。

- a CK
- b AST
- c PSA
- d CRP
- e 白血球数

12 医療チームが患者の QOL を評価する際に誤っているのはどれか。

- a 患者の価値観が評価に影響する。
- b 複数の測定指標が提唱されている。
- c 将来の病状予想により評価が変化する。
- d 患者の病状理解の程度が評価に影響する。
- e 個別患者の状況に対する評価は一定である。

13 成人女性の婦人科診察時の双合診で正しいのはどれか。

- a 側臥位で行う。
- b 外陰部視診の前に行う。
- c 膀胱に尿をためて行う。
- d Douglas 窩は内診指で触診する。
- e 正常卵巣は外診指で触知できる。

14 疾患とリスクファクターの組合せで誤っているのはどれか。

- a 口腔癌 ————— 不適合義歯
- b 声帯麻痺 ————— 音声酷使
- c 下咽頭癌 ————— 飲 酒
- d 睡眠時無呼吸 ————— 肥 満
- e ポリープ様声帯 ————— 喫 煙

15 パルスオキシメトリについて正しいのはどれか。

- a 使用前に装置の滅菌が必要である。
- b 静脈血の酸素飽和度を計測できる。
- c 一酸化炭素中毒の診断に有用である。
- d 過換気症候群の患者で測定値が低下する。
- e 麻酔中の持続的モニターとして使用される。

16 前脊髄動脈症候群の急性期にみられない徴候はどれか。

- a 下肢運動麻痺
- b 下肢振動覚消失
- c 下肢温痛覚消失
- d 下肢腱反射消失
- e 膀胱直腸障害

- 17 行動変容について正しいのはどれか。
- a モデリングが有効である。
 - b 行動を変えて1年間は実行期である。
 - c 準備期の次のステージは関心期である。
 - d 強化マネジメントは無関心期に重要である。
 - e 環境変化に応じて反射的に獲得するものである。
- 18 白内障の初期にみられる症状はどれか。
- a 虹 視
 - b 小 視
 - c 羞 明
 - d 飛蚊症
 - e 視野狭窄
- 19 成人に対する全身麻酔の急速導入で最初に投与するのはどれか。
- a 純酸素
 - b 筋弛緩薬
 - c 吸入麻酔薬
 - d 静脈麻酔薬
 - e 副交感神経刺激薬

20 腎盂腎炎から全身性炎症反応症候群(SIRS)となった成人患者に補液と抗菌薬投与を開始した。治療開始から2日後の白血球数は6,600であった。

この時点のバイタルサインでSIRSから脱出できたと判断できるのはどれか。

	体温 (℃)	脈拍 (/分)	血圧 (mmHg)	呼吸数 (/分)
a	35.0	72	94/66	28
b	37.0	112	94/66	28
c	37.0	112	120/72	14
d	39.0	72	120/72	28
e	39.0	112	94/66	14

21 65歳の女性。腹痛を主訴として家族とともに緩和ケア外来を受診した。1年前に進行膵癌の診断で膵体尾部切除術を受け、1か月前から腹痛が出現した。局所再発、肝転移および腹膜播腫を認め、予後は2か月程度と考えられる。医師が患者に根治は困難であることを伝えた。患者は流涙したまましばらく沈黙が続いた。その後、医師が「お話を続けてもよろしいでしょうか」と声をかけると患者は頷いた。

次に医師がかける言葉として適切なのはどれか。

- a 「何か叶えたい希望はありますか」
- b 「来週落ち着いて話し合しましょう」
- c 「あまりお役にたてることはないようです」
- d 「残された余命について話し合しましょう」
- e 「今どのようなお気持ちか話していただけますか」

22 45歳の女性。腹部膨満感と胆汁様消化液の嘔吐とを主訴に来院した。2か月前に胃癌による癌性腹膜炎と診断され、本人と家族とに数か月の予後と告知されていた。2週前から腹痛に対しオピオイドが投与されており、1週前から排便や排ガスがなくなり、時々、胆汁様消化液の嘔吐がある。るいそうが目立ち、腹部は膨満し、腸雑音が減弱している。腹部エックス線写真で小腸ガスを伴う腸管拡張像が観察され、大腸のガス像を認めない。治療方針について、緩和ケアチームの中で消化器疾患の担当医と緩和ケアの担当医の意見が一致しない。

対応として適切なのはどれか。

- a 他院のセカンドオピニオンを求める。
- b 緩和ケアの担当医の意見を優先させる。
- c 消化器疾患の担当医の意見を優先させる。
- d 患者、家族および緩和ケアチームで話し合う。
- e 在宅ケア担当のかかりつけ医が単独で方針決定する。

23 指導医、研修医および看護師の3人が救急外来で夜間当直中に、胸痛と呼吸困難とを訴える50歳の男性が搬入されてきた。研修医が心電図モニターの装着、静脈路確保などの処置を行っていたところ、患者が心肺停止状態となり、指導医が胸骨圧迫を開始した。心電図モニター上、心室細動を認めた。一時的な胸骨圧迫の中断のもと、研修医が150Jで電氣的除細動を行った直後、患者の傍らにいた看護師が突然、意識を消失して倒れた。研修医が確認したところ看護師の呼吸は停止し、脈を触知しなかった。

この看護師の病態として、まず想起すべきなのはどれか。

- a 心室細動
- b 房室ブロック
- c くも膜下出血
- d 急性冠症候群
- e 神経失調性失神

24 32歳の女性。咳嗽と夜間の呼吸困難とを主訴に来院した。3か月前から夜間主体の咳嗽が出現し、夜間の呼吸困難も伴うようになったため、昼間に来院した。冷気の吸入や線香の煙によっても咳が誘発される。喫煙歴はない。意識は清明。体温36.5℃。脈拍76/分、整。血圧116/68 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂ 97% (room air)。心音に異常を認めない。呼吸音は呼気終末に wheezes を聴取する。血液所見：赤血球395万、Hb 13.6 g/dL、Ht 42%、白血球4,800 (好中球63%、好酸球15%、単球5%、リンパ球16%)、血小板18万。IgE 280 IU/mL (基準250未満)。CRP 0.1 mg/dL。胸部エックス線写真で異常を認めない。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 気管支喘息
- b 過敏性肺炎
- c 肺血栓塞栓症
- d 副鼻腔気管支症候群
- e びまん性汎細気管支炎

25 1歳6か月の男児。発熱と活気不良のため母親に連れられて来院した。3日前から38.5℃の発熱と皮疹とを認め、昨日かかりつけ医を受診した。咽頭ぬぐい液のA群β溶連菌迅速検査は陰性で、解熱薬が処方され帰宅した。本日から活気不良となり紹介された。体重15 kg。体温39.2℃。脈拍140/分、整。血圧88/56 mmHg。活気なし。左頸部に径1.5 cmのリンパ節を1個触知する。呼吸音に異常を認めない。体幹や四肢に小紅斑が散在し、BCG接種部位の発赤を認める。

注意すべき診察部位はどれか。

- a 舌
- b 毛髪
- c 歯肉
- d 鼓膜
- e 眼瞼結膜

26 4歳の男児。全身けいれんが持続するため救急車で搬入された。昨日から39℃以上の発熱があったという。食事と水分の摂取はやや低下しているが嘔吐や下痢はなく、排尿はあったという。今朝、全身けいれんが始まり約20分間持続しているため母親が救急車を要請した。来院時もけいれんが持続している。

まず行うべき処置として適切でないのはどれか。

- a 酸素投与
- b 気道確保
- c 胃管挿入
- d 静脈路確保
- e ジアゼパム投与

27 70歳の男性。開胸手術中である。全身麻酔下に従量式の人工呼吸管理をしている。喫煙歴は30本/日を30年間。身長160cm、体重60kg。体温36.5℃。換気回数10/分、心拍数80/分、整。血圧120/80mmHg。吸入酸素濃度50%でのSpO₂が94%に低下してきた。尿量50mL/時。吸気性および呼気性のcoarse cracklesを聴取する。手術開始時および現在の気道内圧曲線(別冊No. 1)を別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 気管内吸引
- b 胸部エックス線撮影
- c 利尿薬の静脈内投与
- d 気管支拡張薬の吸入
- e 換気法を従量式から従圧式に変更

別 冊

No. 1

28 74歳の女性。下痢と口渇とを主訴に来院した。昨夜から水様便が5回あった。同居している夫も2日前から下痢をしているという。食欲が低下し水分も十分とれないため入院治療を開始した。口腔内は乾燥し、心窩部と左下腹部とに軽い圧痛を認める。

入院診療録の問題指向型医療記録(POMR)において assessment(評価)の記載に該当するのはどれか。

- a 「整腸薬を処方する」
- b 「腹部に圧痛を認める」
- c 「昨夜から下痢をしている」
- d 「細胞外液の点滴静注を行う」
- e 「ウイルス性の急性腸炎が疑われる」

29 56歳の男性。四肢の筋けいれんを主訴に来院した。炎天下で道路工事をしていた。午後になり、気分不快とふらつきが出現し、四肢に筋けいれんが生じるようになってきたため同僚に付き添われて受診した。朝から尿が出ていないという。意識レベルはJCS I-2。体温37.2℃。脈拍100/分、整。血圧104/70 mmHg。呼吸数18/分。皮膚、口腔粘膜、舌および腋窩は乾燥している。頸静脈の虚脱を認める。血液生化学所見：総蛋白8.3 g/dL、アルブミン4.5 g/dL、血糖98 mg/dL、尿素窒素46 mg/dL、クレアチニン2.0 mg/dL、尿酸7.8 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.8 mEq/L、Cl 98 mEq/L。

治療として適切なのはどれか。

- a 血液透析
- b ドパミン投与
- c フロセミド投与
- d 生理食塩液点滴
- e 重炭酸ナトリウム投与

30 62歳の男性。顔面の発赤を主訴に来院した。3日前に顔面の発赤が出現した。37.2℃の発熱と顔面の熱感があり、押さえると痛みを感じた。症状が改善しないため受診した。顔面の痒み、日光過敏、関節痛および筋肉痛は自覚していない。化粧品や外用薬は使用していない。糖尿病で治療中である。喫煙歴はなく、飲酒は機会飲酒。兄が関節リウマチ。意識は清明。体温37.5℃。脈拍96/分、整。血圧122/64 mmHg。呼吸数14/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。両頬部に発赤と圧痛とを認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。顔面の写真(別冊No. 2)を別に示す。

最も適切な治療薬はどれか。

- a 抗真菌薬
- b 抗ウイルス薬
- c 副腎皮質ステロイド
- d ペニシリン系抗菌薬
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)

別冊 No. 2

次の文を読み、31、32の問いに答えよ。

29歳の女性。頭痛を主訴に来院した。

現病歴 : 1か月前から毎日午後3時ころになると頭が重くなり、肩から首にかけて固まってしまふような違和感を覚えるようになった。症状は次第に強くなり、3週間前からは常に頭全体の鈍い痛みを自覚し始めた。市販の鎮痛薬を内服したが症状は改善せず、頭痛のために仕事の効率が悪くなり、何度か「集中力が足りない」と会社の上司に注意を受けた。上司の勧めで脳神経外科を受診し、頸部単純エックス線撮影と頭部MRIとを受けたが異常を認めなかった。2週間前からは痛みとともに全身のだるさも出現し、家事も含めたすべてのことがおっくうになっている。また、症状のために夜なかなか眠りにつくことができず、一方、朝は時間どおりに起きることができなくなっている。この1週間のうち何度か歩行中に段差につまずくことがあった。頭を打った記憶はない。軽い吐き気があるが嘔吐はない。便通は1日1回で変化はない。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴と飲酒歴とはない。夫と2人暮らし。仕事は事務職だが、半年前に部署が変わり、それまでの単純作業から判断の責任を問われる業務となり、恒常的に残業をするようになった。最終月経は10日前から6日前までで、妊娠の可能性はないという。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長158 cm、体重46 kg。体温37.1℃。脈拍76/分、整。血圧96/48 mmHg。呼吸数12/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。視力に異常を認めない。対光反射は正常である。顔面に浮腫を認めない。前額部および頬部に圧痛や叩打痛を認めない。う歯を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経学的所見に異常を認めない。

31 診断に最も有用な質問はどれか。

- a 「異常な光が見えることはありますか」
- b 「気持ちが落ち込むことはありますか」
- c 「髪の毛が異常に抜けることはありますか」
- d 「字を書くのが困難と感じることはありますか」
- e 「皮膚に赤いぶつぶつが出ることはありますか」

32 面接を進める中での患者と担当医の会話を以下に示す。

患者「最近、朝なかなか起きることができず、会社を遅刻してしまうかもしれないと心配しています」

担当医「なるほど。朝が起きづらいと、遅刻が心配になるのも無理はないですね」

担当医の言葉の背景にあるのはどれか。

- a 援助的態度
- b 解釈的態度
- c 共感的態度
- d 調査的態度
- e 評価的態度

次の文を読み、33、34の問いに答えよ。

71歳の男性。ふらつきを主訴に来院した。

現病歴 : 1週間前から朝の目覚めが悪く、散歩中に気分が悪くて座りこむことが多くなった。階段を上がる際に息切れを自覚するようになり、心配になったため受診した。2週間前から便が黒かったという。以前から通院中の内科で3週間に行った検査結果を持参している。

既往歴 : 高血圧症と心房細動のため、前述の内科に通院中である。1か月前に右膝を痛み、自宅近くの診療所で処方された鎮痛薬を服用している。

生活歴 : 6年前に会社を退職して、妻、長男夫婦および小学生の孫と同居している。喫煙は45歳まで15本/日を25年間。飲酒は機会飲酒。

検査所見(持参したもの) : 血液所見:赤血球343万、Hb 10.6 g/dL、Ht 33%、白血球7,300、血小板10万、PT-INR 1.9(基準0.9~1.1)、APTT 38.4秒(基準対照32.2)。血液生化学所見:総蛋白6.0 g/dL、アルブミン3.2 g/dL、総ビリルビン1.2 mg/dL、直接ビリルビン0.3 mg/dL、AST 33 IU/L、ALT 26 IU/L、LD 256 IU/L(基準176~353)、尿素窒素15 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、血糖98 mg/dL、Na 131 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 97 mEq/L。

現症 : 意識は清明。身長173 cm、体重78 kg。体温36.2℃。脈拍96/分、不整。血圧148/78 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 97%(room air)。皮膚は乾燥している。眼瞼結膜は貧血様で、眼球結膜に黄染を認めない。眼振を認めない。口腔内と咽頭とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。浮腫を認めない。四肢の筋力は保たれており、起立と歩行とに異常を認めない。腱反射に異常を認めない。

33 診断のために再度確認すべきなのはどれか。

- a 食物アレルギー歴
- b 感染性疾患の有無
- c 2週間以内の海外渡航
- d 医療機関での処方内容
- e 家庭でのストレスの程度

34 次に行うべきなのはどれか。

- a 頭部CT
- b 直腸鏡検査
- c 骨髄穿刺検査
- d 血清ビタミン B₁₂ 測定
- e 上部消化管内視鏡検査

次の文を読み、35、36の問いに答えよ。

70歳の女性。発熱、咳嗽、喀痰および呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴 : 3日前から咳嗽と喀痰とを自覚していた。その後、徐々に呼吸困難を感じるようになり、昨晚から発熱も認めため、家族の運転する車で受診した。

既往歴 : 32歳時に虫垂炎。気管支喘息のため、5年前から時々吸入薬を使用している。

生活歴 : 長女夫婦と孫との4人暮らし。喫煙歴と飲酒歴はない。ADLは自立している。家事を分担しながら近所の児童館で読み聞かせのボランティアをしている。この1年間で特記すべき旅行歴はない。

現 症 : 意識は清明。身長153 cm、体重48 kg。体温38.1℃。脈拍92/分、整。血圧118/62 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂ 93% (room air)。頸静脈の怒張を認めない。心音に異常を認めない。右側の下胸部で coarse crackles を聴取する。下腿に浮腫を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球368万、Hb 11.9 g/dL、Ht 36%、白血球9,800、血小板23万。血液生化学所見：尿素窒素22 mg/dL、クレアチニン1.2 mg/dL。CRP 5.2 mg/dL。

その後の経過 : 酸素投与を開始し、胸部エックス線撮影を行った。撮影室から車椅子で救急外来に戻ったところで突然意識レベルがJCS II-30に低下した。橈骨動脈の脈拍は触知不能。すぐにベッドに移した。脈拍(頸動脈)124/分、整。

35 直ちに行うべきなのはどれか。

- a β 遮断薬急速静注
- b ブドウ糖液急速輸液
- c 生理食塩液急速輸液
- d 重炭酸ナトリウム静注
- e 副腎皮質ステロイド静注

その後の経過 : 適切な治療により状態は安定し、肺炎の診断で入院となった。喀痰の Gram 染色で好中球による Gram 陽性双球菌の貪食像を認めたため、酸素投与に加えてペニシリン系抗菌薬の点滴静注が開始された。5日後、喀痰は減り、呼吸状態も改善して酸素も不要となったが、38℃台の発熱が再燃するとともに頻回の下痢が出現した。

36 まず行うべき検査はどれか。

- a 抗核抗体
- b 注腸造影
- c 腹部造影 CT
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 便中 *Clostridium difficile* 毒素

次の文を読み、37、38の問いに答えよ。

75歳の男性。尿が出ないことと腹部の膨満感を主訴に来院した。

現病歴 : 2日前からくしゃみと鼻汁のため市販の総合感冒薬を内服していた。昨夜から尿が出なくなり、下腹部の膨満感と疼痛が出現した。以前から尿が出にくく残尿感があったという。

既往歴 : 10歳時に虫垂切除術。

生活歴 : 無職。妻と2人暮らし。喫煙は45歳まで20本/日を25年間。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長175 cm、体重80 kg。体温36.7℃。脈拍88/分、整。血圧120/84 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 98% (room air)。皮膚は乾燥。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内と咽頭とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腹部は緊満しており、恥骨上に圧痛を認める。

- 37 この患者に直腸指診を行った際の前立腺所見はどれか。
- a 圧 痛
 - b 熱 感
 - c 一部が石様硬
 - d 可動性の消失
 - e 弾性硬の腫大
- 38 この患者に尿道カテーテルを留置する際の手順で正しいのはどれか。
- a 清潔操作は不要である。
 - b 患者に碎石位をとってもらう。
 - c 陰茎を十分に牽引して挿入する。
 - d 留置したカテーテルは皮膚に固定しない。
 - e 挿入中に抵抗を感じたところで先端のバルーンを膨らませる。

